

電子マネーの普及拡大と商店街ポイントカード

菊地 博

今年、3月18日からIC乗車券「PASMO(パスモ)」のサービスが開始されました。予想外の売れ行きで発売から1ヵ月もたない4月12日には発売が制限されました。パスモはJR東日本の「Suica(スイカ)」と同様、非接触ICカードで、IC乗車券・定期券の機能だけでなくプリペイド型電子マネーの機能も備えています。パスモとスイカが提携したことで、JR東日本、首都圏の私鉄、地下鉄、バスでの利用が可能となり利便性が飛躍的に向上しました。

プリペイド型電子マネーには、これらの他に2001年にサービスを開始した「Edy(エディ)」や4月23日にサービスを開始した「nanaco(ナナコ)」があります。プリペイド型電子マネーを比較すると次の表のようになります。

	スイカ	パスモ	エディ	ナナコ
運営主体	JR東日本	(私鉄系)	ビットワレット	セブン&アイ
発行枚数	約2,000万枚	約300万枚	約2,600万枚	
利用可能店舗	駅ナカ、ファミリーマート、など約13,000店		am/pm、ヨドバシカメラなど約49,000店	セブンイレブンなど

プリペイド型電子マネーの他に、代金後払いのクレジットカード型電子マネーがあります。NTTドコモと三井住友カードの「iD」、JCBとトヨタファイナンスの「クイックペイ」、UFJニコスの「スマートプラス」、ビザ・インターナショナルの「ビザタッチ」がこれにあたります。

これら電子マネーは、IC乗車券あるいはクレジットカードとして利用されるだけでなく、身分証明書やポイントカードなどにも利用されるようになってきています。これまで、青物横丁商店街などのように独自のICカードによるポイントカードの発行が行われてきましたが、電子マネーの普及拡大を契機にこれを商店街振興に役立たせようという次の動きがあります。

- 大森銀座商店街:3月23日からパスモとスイカを利用したポイントサービスを開始。
- 五反田商店街振興組合:3月23日からパスモとスイカを利用したポイントサービスを開始。
- 目黒区商店街連合会:今秋からパスモを活用したポイントサービスの開始を予定。

パスモやスイカなど既存のカードを利用したポイントサービスは、電子マネーそのものの利便性に加え、カード発行コストがかからないという利点があります。ただし、カード読取機の設置費用や運営会社あるいはポイントサービス会社への手数料支払は必要です。売上増にどれだけ結びつくか分かりませんが、大手コンビニ、スーパー、百貨店と対抗できる可能性があり、商店街振興の一手段といえるかもしれません。